

関東学連 2018 年度ロングエリート推薦選考方法

2018 年 8 月 1 日

2018 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会

ロング・ディスタンス競技部門

関東地区代表選手選考会実行委員会

1. 概要

先日のロングセレの中止を受けて行われた 2018 年度第二回関東学連臨時総会にて今年度のロングエリート選考方法が決定され、ロングセレ実行委員会が第三者委員会として推薦枠の選考を依頼された。実行委員会はこの依頼を受け、推薦枠の選考のための会議（以下、「推薦会議」とする）を執り行った。本文書は推薦会議で決定した選考方法の詳細を説明するものである。

2. 男子の選考方法

目的：推薦立候補者 19 名の中から通過者 4 名＋補欠 2 名を選出する。補欠者については順位付けを行う。

実行委員会での議論の結果、以下の手順で選出することとした。

- ① 各団体より提出されたクラブ内順位を参照し、7 名以上が推薦に立候補しているクラブの、候補者内順位が 7 位以下の選手を除外する。
- ② 過去の大会の記録を参照し、昨年度インカレロング以降に開催された大会の中から、残った立候補者の多くが参加している大会とクラスを抽出し、その結果が立候補者の中で劣っているとされる選手を除外する。
- ③ 各選手より提出された推薦資料を参照し、残った選手を対象に実行委員会にて投票を行う。

以下で各手順の詳細及び結果を説明する。

① 7 名以上が推薦に立候補しているクラブに該当するのは東大 OLK のみであった。東大 OLK はクラブ内順位 10 位までの選手が通過し、11 位以降の選手が推薦対象となっている。そのため、クラブ内順位 17 位以下で立候補している選手 2 名を除外することとした。

② 昨年 11 月以降に開催された大会の中から、残った立候補者 17 名の多くが参加している大会とそのクラスとして、以下を選定した。スプリント競技及びリレー競技の大会は含めない。また、インカレ MUF クラスは含めない。

第 44 回全日本オリエンテーリング大会	M20E、M21A
第 40 回東大 OLK 大会	M21A
第 3 回東工大大会	M21A
2018WOC/WUOC/JWOC 代表選考会	MJS (MJSC も同一クラスとして含める)
2017 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会ミドルディスタンス競技部門	MUA
京葉オリエンテーリングクラブ創立 40 周年記念大会	M21A
2017 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会ロングディスタンス競技部門	MUL

各大会のクラスにおいて参加した候補者（失格となった選手は除く）の平均タイムを算出し、各選手が平均よりも速いタイムを記録した大会（以下、「得点レース」とする）の数を集計する。この数が上記の大会のクラスの出走数（失格となったレースも含む）の 50% に満たない選手を除外した。その際、M21A1/M21A2 のように複数のレーンが存在するクラスについてはレーン差を考慮せず 1 つのクラスとして扱った。全日本大会 M21A/M20E のように同一大会の複数のクラスが対象となっているものは参加者が被っていない別の大会として扱う。また、インカレロング・インカレミドルの選手権クラスに出走した選手についてはその大会の併設クラス（MUL・MUA）での候補者の平均タイムよりも速かったものとみなして計算した。（つまり選手権クラス出走者はそのインカレは得点レースとしてカウントされる。）記録は 2018 年 7 月 28 日時点で LapCenter (<https://mulka2.com/lapcenter/>) に掲載されているものを参照した。この手順によって 9 名が除外された。

③ 残った 8 名について推薦会議に参加した実行委員会メンバー 13 名（以下、「投票者」とする）による投票で通過者 4 名＋補欠 2 名を決定する。投票は各自が推薦資料を参照した上で行う。投票は 2 回に分けて行う。

1 回目の投票では各投票者が 2 点を 2 名、1 点を別の 2 名に投票することができる。投票の結果、得点の上位 2 名を通過とする。同点の場合は 2 点を投票された数の多い方を上位とする。それも同じ場合は決選投票を行う。

2 回目の投票では残った 6 名の選手が対象となる。各投票者が 2 点を 2 名、1 点を別の 2 名に投票することができる。投票の結果、得点の上位 2 名を通過とし、3 位を補欠 1 位、4 位を補欠 2 位とする。同点の場合は 2 点を投票された数の多い方を上位とする。それも同じ場合は決選投票を行う。

3. 女子の選考方法

目的：推薦立候補者 15 名の中から通過者 6 名＋補欠 2 名を選出する。補欠者については順位付けを行う。

実行委員会での議論の結果、以下の手順で選出することとした。

- ① 過去の大会の記録を参照し、昨年 11 月以降に開催された大会の中から、立候補者の多くが参加している大会とクラスを抽出し、その結果が立候補者の中で劣っているとされる選手を除外する。
- ② 各選手より提出された推薦資料を参照し、残った選手を対象に実行委員会にて投票を行う。

以下で各手順の詳細及び結果について説明する。

- ① 昨年 11 月以降に開催された大会の中から、立候補者の多くが参加している大会とそのクラスとして、以下を選定した。スプリント競技及びリレー競技の大会は含めない。また、インカレ WUF クラスは考慮しない。

第 44 回全日本オリエンテering大会	W20E、W21A
2018WOC/WUOC/JWOC 代表選考会 WS (WSC を同一クラスとして含める)、WJS	
2017 年度日本学生オリエンテering選手権大会ミドルディスタンス競技部門	WUA
京葉オリエンテeringクラブ創立 40 周年記念大会	W21A
2017 年度日本学生オリエンテering選手権大会ロングディスタンス競技部門	WUL

各大会のクラスにおいて参加した候補者の平均タイムを算出し、各選手が平均よりも速いタイムを記録した大会の数を集計する。この数が上記の大会のクラスの出走数（失格となったレースも含む）の 50%に満たない選手を除外した。その際、WUL1/WUL2 のように複数のレーンが存在するクラスについてはレーン差を考慮せず 1 つのクラスとして扱った。また、インカレロング・インカレミドルの選手権クラスに出走した選手については（記録が失格であったとしても）その大会の併設クラス（WUL・WUA）での候補者の平均よりも速かったものとみなして計算した。（つまり選手権クラス出走者はそのインカレは得点レースとしてカウントされる。）記録は 2018 年 7 月 28 日時点で LapCenter (<https://mulka2.com/lapcenter/>) に掲載されているものを参照した。この手順によって 5 名が除外された。

- ② 残った 10 名について推薦会議に参加した実行委員会メンバー 13 名による投票で通過者 6 名＋補欠 2 名を決定する。投票は各自が推薦資料を参照した上で行う。投票は 2 回に分けて行う。

1回目の投票では各投票者が3点を2名、2点を別の2名、1点をさらに別の2名に投票することができる。投票の結果、得点の上位4名を通過とする。同点の場合は3点を投票された数の多い方を上位とする。それも同じ場合は2点を投票された数の多い方を上位とする。それも同じ場合は決選投票を行う。

2回目の投票では残った6名の選手が対象となる。各投票者が2点を2名、1点を別の2名に投票することができる。投票の結果、得点の上位2名を通過とし、3位を補欠1位、4位を補欠2位とする。同点の場合は2点を投票された数の多い方を上位とする。それも同じ場合は決選投票を行う。

4. 補足

以下では上記選考方法を取った理由に関して、想定される疑問に答える形で説明する。

・なぜ投票により決定したのか

→ まず、本選考で選ぶべきは「枠を取れる可能性の高い選手」であるが、選考対象選手の実力は比較的拮抗していたため、客観的なデータのみで万人が納得する「枠を取れる可能性の高い選手」を判断することは難しい。そのため、客観的なデータを判断材料としつつも、最終的な決定は実行委員会メンバーの判断に委ねる必要があった。

また、特に男子の選考対象は、関東学連から選ばれる32名の中で下位に位置する4名であり、客観的に「枠を取れる可能性が高い」と見なして選手を選出するのは難しい。そのため、まずは客観的に「枠を取れる見込みが薄い」と考えられる基準を設定し、該当する候補者を除外した後、最終的な決定は、個人に判断を委ねつつも複数の意思を反映させることで主観の影響をある程度排除できる、実行委員会による投票という形で行うこととした。

・なぜ最初から投票を行わなかったのか

→ 投票では投票者1人1人の主観が介在するのを避けられない上、候補者が多い場合は票が分散し、投票者の主観の影響が大きくなる。そのため、可能な限り客観的な方法で候補者を絞り込んだ後、絞り込みが不可能な段階に限って投票を行うのが適切であると判断した。

・なぜ男子①の手順を行ったのか

→ 明確な順位付けが行われているはずの同一クラブ内の選手が6名を超えて立候補しており、選考に際し考慮せねばならなくなっていることは、枠を取れる可能性の高い6名を選出するという本選考の目的に沿わない。後の手順で実行委員会によって行われる評価がクラブ内での評価と食い違う可能性はあるが、クラブ内で選考枠を超えた順位での評価を受けていることは「枠を取れる見込みが薄い」とみなす理由としては十分だと判

断した。

・なぜ男子②の手順を行ったのか

→ 先述の通り、可能な限り客観的な方法で候補者を絞りたかったためである。またこれも先述の通り、候補者の多くは「枠を取れる可能性が高い」とは考え難いため、候補者中の平均タイムを下回ることの方が多かった者は、「枠を取れる見込みが薄い」と判断し、絞り込むことが可能であると考えたからである。

・女子の立候補者の性質が男子とは異なるにも関わらず男子と同様の手順で選考を行ったのはなぜか

→ 女子の選考の対象には枠を取れる可能性が十分に高い選手も含まれており、一見すると男子よりも客観的に「枠を取れる可能性が高い」と見なして選手を選出するのは容易であるように思われる。しかし、女子はクラブごとの順位表が存在しないことに加えて、各立候補者が参加している大会数が少ない。そのため、男子よりも客観的評価を行うのが困難であり、やはり候補者を絞った上で最終的には投票を行うのが妥当だと考えられる。

・なぜ参照する大会の期間を昨年 11 月以降に設定したのか

→ 候補者の中には今年度に入ってから様々な事情で大会に参加していない選手が多いため昨年度まで対象を拡大した。期間を長く取ると最近になって実力を伸ばした 2 年生にとって不利になるが、インカレ MUF/WUF クラスを考慮しないことで、2 年生は主に今年度の大会で評価されるようにした。

・クラブごとの枠の配分はスプリントセレの結果を基準としているにもかかわらずスプリント競技の結果を考慮していないのはなぜか

→ スプリント競技とロングディスタンス競技では求められる技術が大きく異なる。クラブごとの一定の競技力を持つ層の厚さを測る指標としては妥当であるが、個人の実力を測る指標として妥当とは言い難い。

・リレー競技の結果を考慮しないのはなぜか

→ リレー競技には個人種目にはない様々な要素が介在しており、個人の実力を測る指標として妥当とは言い難い。

・インカレ選手権クラス出走者の結果を無条件に得点レースとして計上したのはなぜか

→ 他大会の他クラスに比して、候補者中で出走した選手の平均レベルが高く、平均よりも速いタイムを記録することが難しいと考えられるため、他大会の他クラスと同様の扱

いとすることは不適切であると考えられる。

そこで、一般的に、セクションレースを通過した選手権クラス出走者は、セクションレースを通過出来なかった併設クラス出走者よりも、その時点において高い実力を持っており、その水準は候補者の平均タイムを上回ることと同視出来ると判断した。

・なぜ2回に分けて投票を行ったのか

→ 1回の投票ではボーダー付近の票が分散し、投票者1人1人の主観の影響が大きくなる（ごく一部の投票者の支持により選出される）可能性が出てくるため、1回目の投票で特に票の集まる候補者を先に選出した後、候補者を減らした状態で2回目の投票を行うことで、極力投票者1人1人の主観の影響を排した。

・なぜ投票の際各クラブの順位表を考慮しなかったのか

→ 各クラブの順位表は基準が統一されておらず、足切りとしての使用には耐えうるものの、異なるクラブに所属する選手の実力を比較するツールとしては不適當であるから。

・なぜ投票の際推薦資料を参照したのか

→ まず、推薦資料は、関東学連から実行委員会に正式に提出された選考のための資料であること。また、推薦資料に記述される実績は客観的な記録であり、かつ立候補者は自身にとって有利な実績のみを書くことができるという点において、公平な判断材料であるから。

また、特に男子の選考においては、関東学連から選ばれる32名の中で下位に位置する4名を選ぶという性格上、その選手にとって有利な実績を見ることで、枠を取れる可能性があるかという判断に資するとの考えもあった。

以上